

# 読書の秋だ！

## 本を読もう！スペシャル

### 行こうよ！図書館へ

読書の秋は、唐代の詩人として高名な韓愈が詠んだ漢詩「時秋積雨霽、新涼入郊墟。燈火稍可親、簡編可卷舒。」秋になり長雨が上がり空も晴れ、涼しさが丘陵にも及んでいる。ようやく夜の灯に親しみ、書物を広げられるのが由来になったといわれています。涼しく、本をゆっくり読むのも最適な季節です。

コロナ禍のステイホームでも一人で楽しめる読書。

普段本を読まない人は、ぜひこの機会に、本を手にとってみませんか。また、本を普段から読む人はこの機会に、ジャンルを広げて本を読んでみませんか。

今回は、3ページにわたり、この季節に おすすめの本を紹介します。



宇宙一ずぼら 絶品めし 著/だれウマ



図書館は自分の可能性を広げることができる場所です

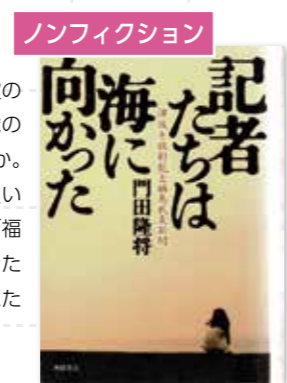
本の良いところは、読むことで自分の知らない知識やいろんな世界を知ることができることです。広報紙で紹介する本は、いろんなジャンルの本に出会っていただきたという思いから、あえて小説や絵本だけでなく、子育てなどの生活に関する本や、普段手に取らなような本をチョイスしています。普段本を読まない方ももちろん、本が好きな方でもこのページで「こんな本もあるんだ！読んでみようかな」と手に取ってもらえるきっかけになればいいと思います。

また、中央図書館は12月からセルフ貸出機の設置や洋式トイレ・自動水栓洗面台への改修など、より使いやすくなります。図書館には、文字が大きく読みやすい大活字本やなかなか読むことができない昔の資料など、さまざまな用途に合った物も置いてあります。検温や消毒液の設置など、新型コロナウイルス感染症防止も行っていきますので、気軽にお立ち寄りください。

#### 新着 農業、料理



農家が教えるゆずづくし 編/農山漁村文化協会



東日本大震災による大津波の最前線で取材していた24歳の地元紙記者は、なぜ死んだのか。その死は、なぜ仲間たちに負い目とトラウマを残したのか。「福島民友新聞」を舞台に、記者たちから3年を要して出版されたノンフィクション。

記者たちは海に向かった ~津波と放射能と福島民友新聞~ 著/門田 隆将

読書の秋に用意した  
とっておきの10冊

さあ、あなたは  
どれから読みたい？

#### ドキュメンタリー



ふるさとが荒れ果てていくのは申し訳ないと、山あいの段々畑に花を植え続けた夫婦と、杉山を守る武さんを、18年にわたり取材したTV番組の記録です。山での暮らしや四季折々の写真から、ふるさとを想う気持ちがしんみりと伝わってきます。

花のあとさき ~ムツさんにきいたこと~ 著/伊藤 純・百崎 満晴

#### 政治、社会



**利用者おすすめの本**

**北欧の幸せな社会のつくり方~ 10代からの政治と選挙~**  
著/あぶみ あさき

この本は、私の政治へのイメージを「わくわくするもの」に変えてくれました。北欧では、小学生から政治について学び、10代の頃から選挙活動に取り組んでいます。「自分の意見には価値がある」「自分の1票で未来が変わる」「みんなのことはみんなで決める」自分たちの暮らす社会を、幸せな社会にするのは、自分たち自身だと改めて考えさせられました。お祭りのような活動や、アイデア満載の選挙グッズなどの写真を見るだけでも、楽しい気持ちになります。

主人公のリョウは、休暇で沖縄に里帰りし、「お母さん」と家族の思い出の場所を巡るうち、不思議な感覚にとらわれます。3日間の休暇での沖縄の情景とともに、亡き実母や再婚した父、お母さんへの、それぞれの思いを描いた小説です。



アンマーとぼくら 著/有川 ひろ



おばけのやだもん まほうのカレーライス 著/さく・え/ひらのゆきこ

**本を大切に扱おう**

- 印や書き込みをしない
- 汚さない
- 破かない
- 折らない
- 付箋を貼らない
- ぬらさない
- など

もしも、本が破れたり、書き込みをしてしまったら、そのまま、図書館に知らせよう。

1. 利用者カードを作る  
「図書館利用者カード申込書」に必要事項を記入したら、住所を確認できるもの（運転免許証・保険証・学生証など）を準備して、カウンターに提出
2. 借りたい本を持ってカウンターへ  
本は1人10冊まで、貸出期間は2週間です。
3. 本を返す  
実は借りた本は、借りた館以外の中央図書館や他の分館でも返せます。



まずは本を借りる「こと」から始めよう